

# 第7期印西市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画 策定のためのアンケート調査結果概要

## ●調査の目的 (P2～)

本調査は、平成 30 年度を初年度とする「第7期印西市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画」の策定にあたり、高齢者の方の生活実態や要望、課題等を把握する基礎資料とすることを目的に実施しました。

## ●調査概要

- 調査対象者：第1号被保険者（65歳以上の方）
- 調査期間：平成29年1月25日（水）～平成29年2月10日（金）
- 調査方法：郵送配布・郵送回収

調査名	対象	調査対象者数 (配布数)	有効回収数	有効回収率
介護予防・日常生活圏 域ニーズ調査	介護保険の第1号被保険者(65歳以上)の皆さまのうち、要介護認定を受けていない方(無作為抽出)、要支援1又は2及び介護予防・日常生活支援総合事業対象者の方全員	4,717	3,139	66.5%
在宅介護実態調査	介護保険の要介護認定者(65歳以上【要介護1から5の認定を受けている自宅に住所を有する方】)	1,064	517	48.6%

## I 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

### 1. あなたご自身について (P4～)

- ・性別についてみると、「男性」が53.2%、「女性」が43.8%となっています。
- ・年齢についてみると、「65～69歳」が31.0%と割合が最も高く、次いで「70～74歳」が22.1%、「75～79歳」が17.4%となっています。
- ・居住地域についてみると、「南部」が30.8%と割合が最も高く、次いで「北部」が26.9%、「印旛」が15.0%となっています。
- ・要介護度についてみると、「認定は受けていない」が82.7%と割合が最も高く、次いで「要支援2」が6.5%、「要支援1」が5.6%となっています。

### 2. あなたのご家族や生活状況について (P8～)

- ・家族構成についてみると、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が38.0%と割合が最も高く、次いで「息子・娘との2世帯」が22.9%、「1人暮らし」が12.6%となっています。

→1割を超える一人暮らし高齢者への見守り体制の整備が課題です。

- ・介護・介助の必要性についてみると、「介護・介助は必要ない」が78.5%と割合が最も高く、次いで「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が7.1%、「現在、何らかの介護を受けている」が6.8%となっています。
- ・介護・介助が必要になった主な原因についてみると、「高齢による衰弱」が21.1%と割合が最も高く、次いで「骨折・転倒」が18.4%、「心臓病」が12.4%となっています。
- ・主な介護者についてみると、「配偶者(夫・妻)」が28.0%と割合が最も高く、次いで「娘」が20.5%、「息子」が16.6%となっています。

→介護等の必要がない高齢者の割合も高くなっていますが、様々な状況を踏まえた生活支援について検討が必要です。

また、いわゆる「老老介護」の増加への対応についても検討が必要です。

- ・経済的な暮らしの状況についてみると、「ふつう」が66.2%と割合が最も高く、次いで「やや苦しい」が15.7%、「ややゆとりがある」が7.6%となっています。また、「大変苦しい」「やや苦しい」を合わせた『苦しい』は、2割強となっています。

→高齢者への経済的負担の軽減が課題です。

- ・住まいの形態についてみると、「持家(一戸建て)」が67.4%と割合が最も高く、次いで「持家(集合住宅)」が21.8%、「公営賃貸住宅」が3.0%となっています。

- ・主に生活する部屋が2階以上にあるかについてみると、「はい」が38.4%、「いいえ」が56.6%となっています。
- ・階の移動に不便を感じているかについてみると、「はい」が17.0%、「いいえ」が81.3%となっています。

→住み慣れた住まいで生活を継続できる支援の検討が課題です。

### 3. からだを動かすことについて (P16~)

- ・階段を手すりや壁をつたわずに昇っているかについてみると、「できるし、している」が59.0%と割合が最も高く、次いで「できるけどしていない」が17.6%、「できない」が17.1%となっています。年齢別でみると、85歳以上では「できない」の割合がそれぞれ最も高くなっています。
- ・椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているかについてみると、「できるし、している」が73.2%と割合が最も高く、次いで「できない」が12.1%、「できるけどしていない」が11.0%となっています。

→できない方が1割を超えており、日常生活上の運動機能の維持が課題です。

- ・15分位続けて歩いているかについてみると、「できるし、している」が74.2%と割合が最も高く、次いで「できるけどしていない」が13.6%、「できない」が8.7%となっています。
- ・過去1年間に転んだ経験があるかについてみると、「ない」が68.6%と割合が最も高く、次いで「1度ある」が19.1%、「何度もある」が8.8%となっています。
- ・転倒に対する不安についてみると、「やや不安である」が27.8%と割合が最も高く、次いで「あまり不安でない」が27.6%、「不安でない」が26.7%となっています。「とても不安である」「やや不安である」を合わせた『不安である』が41.6%となっています。

→転倒の防止につながる健康づくり・介護予防の取り組みの充実が課題です。

- ・週に1回以上は外出しているかについてみると、「週2~4回」が40.1%と割合が最も高く、次いで「週5回以上」が37.9%、「週1回」が12.2%となっています。
- ・昨年と比べた外出の回数についてみると、「減っていない」が43.5%と割合が最も高く、次いで「あまり減っていない」が31.1%、「減っている」が18.1%となっています。
- ・外出を控えているかについてみると、「はい」が17.6%、「いいえ」が78.7%となっています。
- ・外出を控えている理由についてみると、「足腰などの痛み」が52.8%と割合が最も高く、次いで「交通手段がない」が19.4%、「トイレの心配（失禁など）」が17.8%となっています。

→外出のきっかけづくり等、高齢者の外出をうながす取り組みの充実が課題です。

- ・外出する際の移動手段についてみると、「自動車（自分で運転）」が56.2%と割合が最も高く、次いで「徒歩」が55.9%、「電車」が41.6%となっています。

→地域の实情から、車での外出が多くなっており、高齢者の運転にともなう交通安全等への取り組みの充実、公共交通体制の検討が課題です。

## 4. 食べることについて (P26~)

- ・身長についてみると、「160~170cm 未満」が35.6%と割合が最も高く、次いで「150~160cm 未満」が30.6%、「170cm 以上」が14.6%となっています。
- ・体重についてみると、「50~60kg 未満」が31.2%と割合が最も高く、次いで「60~70kg 未満」が29.7%、「40~50kg 未満」が17.6%となっています。
- ・半年前に比べて固いものが食べにくくなったかについてみると、「はい」が26.4%、「いいえ」が71.3%となっています。
- ・食事は自分でできるかについてみると、「できる」が95.9%と割合が最も高く、次いで「一部介助があればできる」が1.5%、「できない」が0.8%となっています。
- ・お茶や汁物等でむせることがあるかについてみると、「はい」が23.8%、「いいえ」が74.1%となっています。
- ・口の渇きが気になるかについてみると、「はい」が24.9%、「いいえ」が72.8%となっています。性別でみると、男女とも「いいえ」の割合がそれぞれ高くなっています。

→口腔の状態が悪化していると思われる高齢者の割合が高くなっており、改善に向けた取り組みの充実が課題です。

- ・歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日しているかについてみると、「はい」が91.0%、「いいえ」が6.9%となっています。
- ・定期的に歯科受診（健診を含む）をしているかについてみると、「はい」が50.3%、「いいえ」が47.3%となっています。年齢別でみると、80歳以上で「いいえ」の割合がそれぞれ高くなっています。

→定期的な歯科受診、歯科健診を促す取り組みが課題です。また、年齢が高くなるにつれて低下する歯科受診率の向上が課題です。

- ・噛み合わせは良いかについてみると、「はい」が75.4%、「いいえ」が21.2%となっています。
- ・歯の数と入れ歯の利用状況についてみると、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が33.5%と割合が最も高く、次いで「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が32.6%、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」が15.1%となっています。
- ・毎日入れ歯を手入れしているかについてみると、「はい」が89.8%、「いいえ」が5.7%となっています。

→年齢とともに変化する歯茎等に合わせた入れ歯の作成と使用を促す取り組みが課題です。

- ・6か月間で2～3kg以上の体重減少があったかについてみると、「はい」が10.2%、「いいえ」が86.0%となっています。
- ・誰かと食事をとる機会があるかについてみると、「毎日ある」が58.0%と割合が最も高く、次いで「月に何度かある」が17.4%、「年に何度かある」が8.4%となっています。

→孤食解消に向けた取り組みが課題です。

## 5. 毎日の生活について (P39～)

- ・その日の活動（食事、衣服の選択）を自分でできるかについてみると、「困難なくできる」が85.9%と割合が最も高く、次いで「いくらか困難であるが、できる」が11.1%、「判断する時に他人からの合図や見守りが必要」が0.7%となっています。
- ・5分前のことが思い出せるかについてみると、「はい」が93.0%、「いいえ」が4.9%となっています。
- ・人に自分の考えをうまく伝えられるかについてみると、「伝えられる」が85.9%と割合が最も高く、次いで「いくらか困難であるが伝えられる」が8.2%、「あまり伝えられない」が3.5%となっています。
- ・物忘れが多いと感じるかについてみると、「はい」が41.2%、「いいえ」が56.5%となっています。年齢別でみると、79歳以下で「いいえ」、80歳以上で「はい」の割合がそれぞれ高くなっています。
- ・自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしているかについてみると、「はい」が90.0%、「いいえ」が8.4%となっています。
- ・今日が何月何日かわからない時があるかについてみると、「はい」が26.8%、「いいえ」が71.1%となっています。

→認知症の理解促進や見守り体制の充実など、地域ぐるみの認知症支援の取り組みが課題です。

- ・バスや電車を使って1人で外出しているかについてみると、「できるし、している」が79.0%、「できるけどしていない」が10.5%、「できない」が8.4%となっています。
- ・自分で食品・日用品の買物をしているかについてみると、「できるし、している」が76.7%、「できるけどしていない」が15.1%、「できない」が5.7%となっています。
- ・自分で食事の用意をしているかについてみると、「できるし、している」が63.5%、「できるけどしていない」が26.2%、「できない」が7.8%となっています。

→「できない」という方だけでなく、「できるけどしていない」がいずれの活動についても多く見られます。あらゆる活動において「できるし、している」となっていくための取り組みが必要です。

- ・自分で請求書の支払いをしているかについてみると、「できるし、している」が78.3%、「できるけどしていない」が15.0%、「できない」が4.2%となっています。
- ・自分で預貯金の出し入れをしているかについてみると、「できるし、している」が78.1%、「できるけどしていない」が14.7%、「できない」が4.8%となっています。
- ・年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けるかについてみると、「はい」が86.4%、「いい

え」が10.8%となっています。

→高齢者の財産管理の支援など、権利擁護に向けた取り組みの充実が課題です。

- ・新聞を読んでいるかについてみると、「はい」が82.4%、「いいえ」が15.1%となっています。
- ・本や雑誌を読んでいるかについてみると、「はい」が74.7%、「いいえ」が22.4%となっています。
- ・健康についての記事や番組に関心があるかについてみると、「はい」が89.0%、「いいえ」が8.5%となっています。
- ・友人の家を訪ねているかについてみると、「はい」が45.7%、「いいえ」が51.3%となっています。
- ・家族や友人の相談にのっているかについてみると、「はい」が74.7%、「いいえ」が21.9%となっています。
- ・病人を見舞うことができるかについてみると、「はい」が84.2%、「いいえ」が12.5%となっています。
- ・若い人に自分から話しかけることがあるかについてみると、「はい」が73.5%、「いいえ」が23.3%となっています。
- ・趣味はあるかについてみると、「趣味あり」が74.3%、「思いつかない」が18.9%となっています。
- ・生きがいはあるかについてみると、「生きがいあり」が59.4%、「思いつかない」が29.6%となっています。

→「趣味」や「生きがい」については、いずれの年齢も「思いつかない」の割合が2割から4割程度いることから、年齢に関わりなく誰もが参加できる趣味や生きがいづくりが課題です。

## 6. 地域での活動について (P60~)

- ・会・グループ等への参加状況については、全ての項目で、「参加していない」の割合が最も高くなっています。
- ・地域住民の有志の活動に参加者として参加してみたいと思うかについてみると、「是非参加したい」が11.2%、「参加してもよい」が50.0%、「参加したくない」が31.6%となっています。また「是非参加したい」「参加してもよい」を合わせた『参加してもよい』が61.2%となっています。男女ともに、「参加してもよい」の割合がそれぞれ高くなっています。
- ・「いんざい健康ちょきん運動」に参加してみたいと思うかについてみると、「既に参加している」が6.8%、「是非参加したい」が16.5%、「参加したくない」が26.1%、「分からない」が45.5%となっています。
- ・地域住民の有志の活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思うかについてみると、「是非参加したい」が2.6%、「参加してもよい」が30.1%、「参加したくない」が53.6%となっています。

→地域での活動への参加意欲は高くなっていることから、実際に活動に取り組める仕組みづくりが課題です。

## 7. たすけあいについて (P65~)

- ・心配事や愚痴を聞いてくれる人については、「配偶者」が 56.2%と割合が最も高く、次いで「友人」が 38.1%、「別居の子ども」が 34.3%となっています。
- ・心配事や愚痴を聞いてあげる人についてみると、「配偶者」が 53.2%と割合が最も高く、次いで「友人」が 38.6%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 34.5%となっています。
- ・病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人についてみると、「配偶者」が 61.2%と割合が最も高く、次いで「別居の子ども」が 29.3%、「同居の子ども」が 28.7%となっています。
- ・病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてあげる人についてみると、「配偶者」が 59.6%と割合が最も高く、次いで「別居の子ども」が 24.6%、「同居の子ども」が 22.9%となっています。
- ・家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手についてみると、「そのような人はいない」が 35.5%と割合が最も高く、次いで「医師・歯科医師・看護師」が 24.7%、「地域包括支援センター・役所・役場」が 14.0%となっています。
- ・友人・知人と会う頻度についてみると、「週に何度かある」が 27.6%と割合が最も高く、次いで「月に何度かある」が 25.7%、「年に何度かある」が 18.0%となっています。性別でみると、男性で「月に何度かある」、女性で「週に何度かある」の割合がそれぞれ最も高くなっています。年齢別でみると、90歳以上で「ほとんどない」の割合がそれぞれ最も高くなっています。
- ・この1か月間に会った友人・知人の数についてみると、「10人以上」が 24.9%と割合が最も高く、次いで「3~5人」が 22.7%、「1~2人」が 19.3%となっています。
- ・よく会う友人・知人との関係についてみると、「近所・同じ地域の人」が 42.9%と割合が最も高く、次いで「趣味や関心が同じ友人」が 34.2%、「仕事での同僚・元同僚」が 28.0%となっています。
- ・住み慣れた地域での生活を維持していく為に、住民同士の「たすけあい」「ささえあい」は必要であると思うかについてみると、「必要である」が 76.6%、「必要でない」が 1.1%、「わからない」が 13.1%となっています。
- ・住民同士の「たすけあい」「ささえあい」について、どの立場に関わりたいかについてみると、「助ける側になりたい」が 23.2%、「助けを受ける側になりたい」が 5.9%、「助ける側と助けを受ける側の両方を希望」が 68.4%となっています。

→相談相手や交流相手がほとんどいない状態の人が少なくないことから、日常的な相談・見守り・支え合いの仕組みの充実が課題です。

## 8. 健康について (P75~)

- ・現在の健康状態についてみると、「まあよい」が 61.2%と割合が最も高く、次いで「あまりよくない」が 15.1%、「とてもよい」が 13.3%となっています。
- ・現在の幸せの程度についてみると、「8点」が 22.4%と割合が最も高く、次いで「5点」が 18.0%、「10点」が 15.5%となっています。性別でみると、男女とも「8点」の割合がそれぞれ最も高くなっています。年齢別でみると、65~74歳及び90歳以上で「8点」、75歳~89歳で「5点」の割

合がそれぞれ最も高くなっています。

- ・この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったかについてみると、「はい」が32.9%、「いいえ」が58.6%となっています。
- ・この1か月間、どうしても物事に対して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがよくあったかについてみると、「はい」が19.8%、「いいえ」が71.1%となっています。年齢別でみると、いずれの年齢層も「いいえ」の割合がそれぞれ高くなっていますが、85歳以上では「はい」が約3割となっています。

→身体機能の低下や物事への興味の低下は、外出を控える原因となったり、自信の喪失等にもつながることから、運動機能の健康維持に向けた取り組みが課題です。

- ・飲酒の状況についてみると、「もともと飲まない」が29.0%と割合が最も高く、次いで「ほとんど飲まない」が24.9%、「ほぼ毎日飲む」が23.3%となっています。性別でみると、男性で「ほぼ毎日飲む」、女性で「もともと飲まない」の割合がそれぞれ最も高くなっています。
- ・喫煙の状況についてみると、「もともと吸っていない」が53.6%と割合が最も高く、次いで「吸っていたがやめた」が29.8%、「ほぼ毎日吸っている」が8.5%となっています。性別でみると、男性で「吸っていたがやめた」、女性で「もともと吸っていない」の割合がそれぞれ最も高くなっています。また、男性で「ほぼ毎日吸っている」が1割を超えています。

→男性で喫煙、飲酒の割合が高くなっています。禁煙・禁酒等に向けた啓発の充実が課題です。

- ・現在治療中、または後遺症のある病気についてみると、「高血圧」が42.2%と割合が最も高く、次いで「目の病気」が17.4%、「ない」が14.6%となっています。
- ・健康診断を受けているかについてみると、「年に1回は受診している」が53.5%と割合が最も高く、次いで「持病があるので健診は受けず、通院している」が30.7%、「毎年ではないが受診している」が10.4%となっています。
- ・かかりつけの病院（医院）の有無についてみると、「ある」が88.8%、「ない」が9.6%となっています。
- ・現在の健康状態の維持・増進に向けて、何か気をつけたり、取り組んでいることがあるかについてみると、「ある」が77.1%、「ない」が19.9%となっています。

## 9. 市の高齢者福祉施策について (P85~)

- ・成年後見制度を知っているかについてみると、「言葉だけ聞いたことがある」が48.3%と割合が最も高く、次いで「内容まで知っている」が21.9%、「分からない」が15.9%となっています。

→成年後見制度についての周知が求められています。



## Ⅱ 在宅介護実態調査結果

### A票 要介護の認定を受けている方について (P88～)

- ・性別についてみると、「男性」が32.3%、「女性」が67.7%となっています。
- ・年齢についてみると、「90歳以上」が28.6%と割合が最も高く、次いで「85～89歳」が27.7%、「80～84歳」が20.3%となっています。
- ・居住地域についてみると、「北部」が26.7%と割合が最も高く、次いで、「南部」が22.8%、「印旛」が17.4%となっています。
- ・要介護度についてみると、「要介護1」が31.1%と割合が最も高く、次いで「要介護2」が25.9%、「要介護3」が16.4%となっています。
- ・世帯類型についてみると、「単身世帯」が17.0%、「夫婦のみ世帯」が20.1%、「その他」が55.9%となっています。
- ・住まいの形態についてみると、「持家（一戸建て）」が68.1%、「持家（集合住宅）」が15.1%、「公営賃貸住宅」及び「民間賃貸住宅（集合住宅）」がそれぞれ2.7%となっています。
- ・主に生活する部屋が2階以上かについてみると、「はい」が28.4%、「いいえ」が62.7%となっています。
- ・階の移動に不便を感じているかについてみると、「はい」が46.3%、「いいえ」が49.7%となっています。
- ・エレベーターは設置されているかについてみると、「はい」が30.6%、「いいえ」が51.0%となっています。
- ・家族や親族からの介護の頻度についてみると、「ほぼ毎日ある」が53.0%と割合が最も高く、次いで「ない」が16.2%、「週に1～2日ある」が9.1%となっています。
- ・主な介護者についてみると、「子」が47.6%と割合が最も高く、次いで「配偶者」が24.9%、「子の配偶者」が15.3%となっています。
- ・主な介護者の性別についてみると、「男性」が23.5%、「女性」が71.4%となっています。
- ・主な介護者の年齢についてみると、「60代」が34.7%と割合が最も高く、次いで「50代」が23.8%、「70代」が16.9%となっています。
- ・主な介護者の健康状態についてみると、「まあよい」が64.3%と割合が最も高く、次いで「あまりよくない」が18.3%、「とてもよい」が10.8%となっています。

→在宅での主な介護者は、女性の割合が高く、高齢の方の割合も高くなっていることから、介護者の高齢化への対応と支援の充実が課題です。

- ・主な介護者が行っている介護等についてみると、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が78.6%と割合が最も高く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が74.6%、「食事の準備（調理等）」が72.5%となっています。
- ・家族や親族の中で、調査対象者の介護を主な理由として、過去1年間に仕事を辞めたことがあるかに

ついてみると、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が 52.6%と割合が最も高く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が 11.6%、「主な介護者が転職した」が 4.0%となっています。

→調査対象者の介護を主な理由として、過去1年間に仕事を辞めたことがある割合が、家族やご親族の中で約1割いることから、仕事と介護の両立に向けた取組の強化が課題です。

- ・現在利用している「介護保険サービス以外」の支援・サービスについてみると、「利用していない」が 49.7%と割合が最も高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が 8.9%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 8.5%となっています。
- ・配食サービスの利用状況についてみると、「晩のみ」が 69.2%と割合が最も高く、次いで「朝昼晩の3食」が 15.4%、「昼のみ」「朝と晩の2食」がそれぞれ 3.8%となっています。
- ・今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについてみると、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 24.6%と割合が最も高く、次いで「特になし」が 24.2%、「外出同行（通院、買い物など）」が 21.1%となっています。

→今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについて、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」や「外出同行（通院、買い物など）」の潜在的なニーズが高くなっています。今後、在宅生活の継続を可能とするサービスの拡充が課題です。

- ・現時点での、施設等への入所・入居の検討状況についてみると、「入所・入居は検討していない」が 44.1%と割合が最も高く、次いで「入所・入居を検討している」が 20.9%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が 19.0%となっています。
- ・調査対象者が、現在抱えている傷病についてみると、「認知症」が 34.8%と割合が最も高く、次いで「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が 25.0%、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が 24.6%となっています。

→認知症をとまなう在宅生活者が今後も増加することが見込まれることから、認知症への理解促進と、認知症の方やその家族を支える仕組みづくりの充実が課題です。

- ・調査対象者の訪問診療利用についてみると、「利用している」が 12.8%、「利用していない」が 74.5%となっています。

→現状、訪問診療を利用している方の割合は高くありませんが、今後、医療と介護の連携を進め、在宅で医療を受けられる体制作りを進めていくことが課題です。

- ・住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の介護保険サービスの利用状況についてみると、「利用している」が 58.2%、「利用してない」が 25.0%となっています。
- ・介護保険サービスの利用状況についてみると、E通所介護で「週1回程度」が 21.6%、「週2回程度」が 20.6%とそれぞれ2割を超え、その他のサービスと比較して高い割合となっています。
- ・介護保険サービスを利用していない理由についてみると、「本人にサービス利用の希望がない」が 20.2%と割合が最も高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」が 17.8%、「現状では、サービ

スを利用するほどの状態ではない」が17.1%となっています。

- ・介護保険サービスの今後の利用希望についてみると、E通所介護（デイサービス）で「今後利用を希望する」が32.6%、Kショートステイで「今後利用を希望する」が24.0%と、他のサービスに比べてそれぞれ利用を希望する割合が高くなっています。

## B票 主な介護者の方について (P117～)

- ・主な介護者の現在の勤務形態についてみると、「働いていない」が46.8%と割合が最も高く、次いで「パートタイムで働いている」が21.2%、「フルタイムで働いている」が18.8%となっています。
- ・主な介護者が、介護をするにあたって働き方の調整等をしているかについてみると、「1. 特に行っていない」が37.7%と割合が最も高く、次いで「2. 介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が35.1%、「3. 介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取ながら、働いている」が18.5%となっています。
- ・仕事と介護の両立に効果的な勤め先からの支援についてみると、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が25.8%と割合が最も高く、次いで「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が23.2%、「制度を利用しやすい職場づくり」が21.9%となっています。

→長期化する介護を持続的に行うことができるよう、就業先の理解の促進が課題です。

- ・主な介護者が、今後も働きながら介護を継続できるかについてみると、「問題はあるが、何とか続けていける」が57.0%と割合が最も高く、次いで「問題なく、続けていける」が15.9%、「続けていくのは、やや難しい」が9.9%となっています。
- ・現在の生活の継続にあたって、主な介護者が不安に感じる介護等についてみると、「夜間の排泄」が33.9%と割合が最も高く、次いで「認知症状への対応」が31.0%、「入浴・洗身」が26.5%となっています。
- ・介護者向けの介護実践研修の利用希望についてみると、「利用したい」が38.4%、「利用したくない」が41.5%となっています。

→現在の生活の継続にあたって、主な介護者が不安に感じる介護等については、「夜間の排泄」、「認知症状への対応」、「入浴・洗身」など、介護者の身体的な負担を求められる状況・場面への不安が大きくなっていることから、高齢化する介護者への負担を軽減できる取り組みの検討が課題です。